

NMS コミュニケーションズ

携帯テレビ電話の活用領域広げる 新アプリ開発プラットフォーム

NMS コミュニケーションズが、3Gのテレビ電話機能と連携可能なアプリケーションやサービスの開発プラットフォーム「Video Access」の国内展開を本格化させている。Video Accessを活用すれば、3G携帯向けのビデオメッセージングや映像配信、IPベースのテレビ電話と3G携帯電話を接続するゲートウェイなどのシステムを、容易にローコストで構築できるという。その実力を探ってみた。

3G(第3世代携帯電話)のキラーアプリケーションといわれているのがテレビ電話である。NTTドコモやボーダフォン、海外のGSMキャリアが採用しているW-CDMA方式では、端末の大半がテレビ電話機能を搭載している。

NTTドコモの「FOMA」の加入者は今年3月末で1150万だから、すでに日本人の1割がモバイルテレビ電話を持っていることになる。とはいうものの、互いの顔を見ながら電話するという習慣が根付いていないためか、実際にこの機能を使っているユーザーは必ずしも多くない。

こうした携帯テレビ電話の利用シーンを飛躍的に拡大する可能性を秘めているのが、3Gのテレビ機能を活用したアプリケーションやサービスを開発するためのプラットフォーム「Video Access」である。コンピューターテレフォニー(CT)ソリューションベンダーのNMSコミュニケーションズが昨年発表、この春から日本でも本格展開を開始した。

これを利用すれば、特別な通信ソフトの知識がなくても、3Gテレビ電話を利用

したCTアプリケーションを短期間で開発できるという。

既存のDTMFを利用可能に

Video Accessは、以下の主な3つの機能モジュールで構成されている。

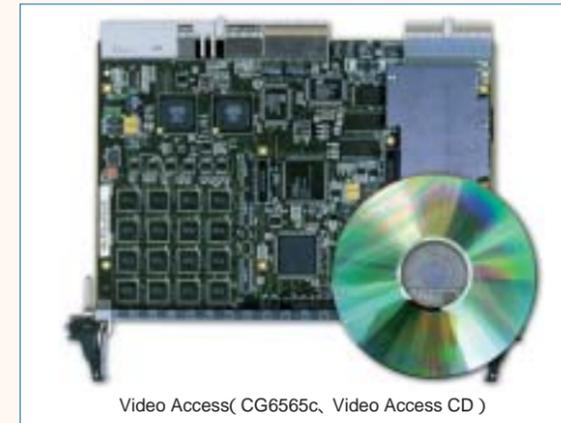
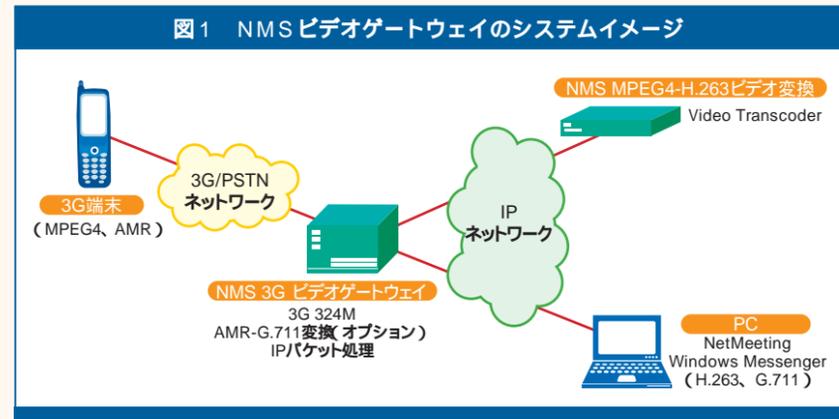
- ゲートウェイ
- メッセージング
- 画像変換

は、ISDN経由で接続された3G携帯電話からの通信をIPネットワークに受け渡す機能。H.223で多重化されて送られてきた映像・音声の信号を分離し、IP網に渡す。逆にIPネットワークから送出された映像と音声を、多重化して3G網に送り出す。

同時に、3Gに使われている音声フォーマットを一般的なG.711に相互変換する機能も搭載。これにより、トーン信号による機能選択(DTMF)を使う既存の応答設備を、3G携帯電話から利用することもできるようになる。

のメッセージング機能は、IPネットワークから受信した映像・音声信号をAVファイル(.3gp)として保存し、そのファイルを映像・音声信号の形でIPネットワークに送出する機能である。

のゲートウェイと組み合わせることで、3G携帯電話から送られてきた映像・音声信号をAVファイル形式で録画したり、逆にAVファイルを携帯電話に送り出せる。ゲートウェイのAMRとG.711の変換機能を利用すれば、



携帯電話からDTMFで録画・再生を制御できる。とを併用することで、携帯テレビ電話を利用した映像留守番電話や3G向けの映像コンテンツ配信システムなどを構築できるわけだ。

の画像変換は、3Gの映像通信に用いられている画像フォーマットのMPEG4を、IPベースのテレビ電話で一般的に使われているH.236に変換したり、その逆を行う機能だ。の機能と組み合わせれば、3G携帯電話とIPテレビ電話との通信を可能にする装置や、3G携帯電話で参加できるテレビ会議アプリケーションを構築できる。

また、現行の3G携帯電話では、映像

フォーマットが同じMPEG4であっても、OSやメーカーによって仕様が異なるケースがある。

の機能はその差異を埋めて、単一のAVファイルで全機種に対応するためにも用いられる。

さらに、を組み合わせれば、音声系のコールセンターで見られるようなアプリケーシ

ョンを、モバイルテレビ電話で容易に実現できる。例えば、3G携帯電話からテレビ電話を着信すると、まず映像による自動応答装置が対応。DTMFで機能を選択し、必要に応じてIPテレビ電話を使っているオペレーターを呼び出すといった仕組みだ。

ボックスソリューションも提供

Video Accessの実装は、との機能については、CTボードの「CG6000」または「CG6500c」をPCに装着し、それぞれの専用ソフトをインストールする形で行われる。

の画像変換については、別のPC筐体にソフトをインストールし、CTボードおよびのソフトを搭載したPCとLAN接続する形がとられるが、制御ソフトは、と同じPC筐体に搭載される。

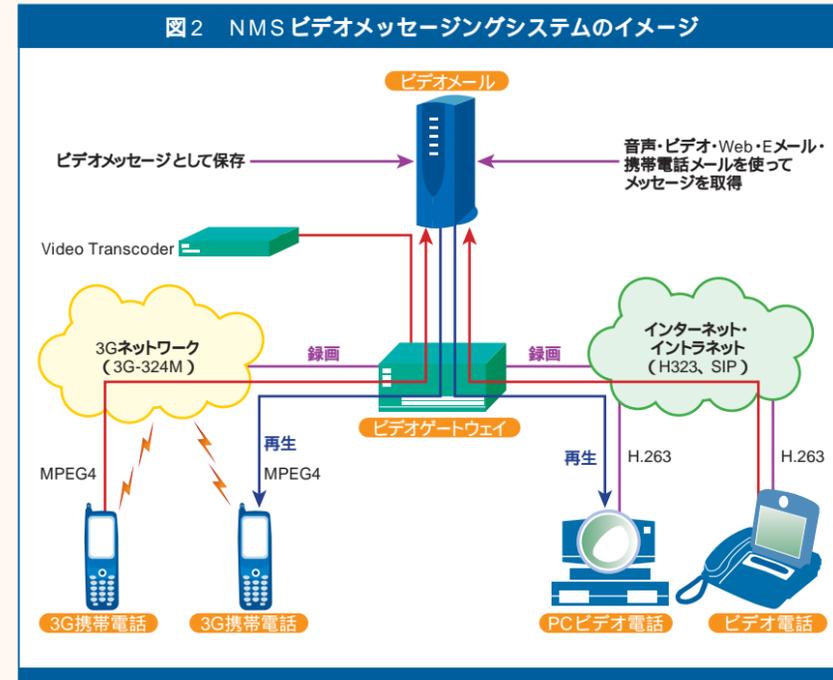
アプリケーションの開発には、NMSが供給する「NaturalAccess」と呼ばれる開発ツールを用いる。

NMSコミュニケーションズでは、これらの機能ごとにハード/ソフトをワンボックス化した製品を、Vision Familyの名称で商品化する計画を進めている。さらに、の機能すべてを実装した「Visionポータル」という製品もリリース予定されている。

Video Accessを活用して多彩なアプリケーションが開発されれば、現在はほとんど3G携帯電話相互間だけに使われているモバイルテレビ電話の活用領域は、大きく広がることになる。例えば企業では、必要な情報をテレビ電話で収集し、その映像を見ながら専門家が指示を出すといった仕事の進め方が普及するだろう。保険加入時などの本人確認も、テレビ電話で行うのが一般的になるかもしれない。

もちろん、Video Accessそのものは、あくまでプラットフォームに過ぎない。これに命を吹き込むのは、魅力的なアプリケーションを創造できる開発ベンダーである。

NMSコミュニケーションズ日本法人の岩下敏社長は、「開発パートナーの支援を通じて、携帯テレビ電話を起点とした新たなビジネスチャンスを創造していきたい」と話している。



NMS COMMUNICATIONS™

お問い合わせ先
NMSコミュニケーションズ株式会社
 営業
 TEL : 03-5325-5591
 E-mail : sales_jp@nmss.com
 URL : http://www.nmscommunications.co.jp